



西浮通信

令和5年1月10日
NO. 387
東京都北区立西浮間小学校
校長 小島 みつる



謹んで初春のお慶びを申し上げます

校長 小島 みつる

今年の干支（えと）は「癸卯（みずのと う）」。干支とは、十干（じっかん）「甲きのえ・乙きのと・丙ひのえ・丁ひのと・戊つちのえ・己つちのと・辛かのえ・辛かのと・壬みずのえ・癸みずのと」と十二支「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」の組み合わせで60通りあります。10番目の「癸」は終わりと始まりを意味するそうです。また、「卯」は「冬の門が開き、飛び出る」という意味があるとされています。この二つの組み合わせである「癸卯（みずのと う）」は、「これまでの努力が花開き、大きく成長する」といった縁起の良い意味になるようです。「今年こそは！」の期待大ですね。

2023

「コロナ」の3文字がまだまだ日々の学校生活に制限をかけてくる状況ではありましたが、それでも昨年は、保護者の皆様に学校行事や授業公開等にご参加をいただくことができました。子供たちの頑張る姿をともに見守り、応援していただき、本当にありがとうございました。子供たちは新しい年を迎え、「今年こそは！」「今年も！」という気持ちが大きくふくらんでいることでしょう。子供たちの夢や目標が実現できるよう、教職員一同、力を合わせ精進してまいります。本年もどうぞご理解、ご協力をお願いいたします。

新年を迎え、「一年の計は元旦にあり」ということで、いろいろと新たな目標を立てられたご家庭も多いと思います。「新しいこと」も大切ですが、古くから続いている「躰（しつけ）」には、普遍的な大切なことがたくさんあります。教育の父と言われた森信三先生の「躰の三原則」を紹介します。

- 1 朝の挨拶をする子に。
- 2 「はい」とはっきり返事のできる子に。
- 3 席を立ったら必ず椅子を入れ、履物（はきもの）を脱いだら必ずそろえる子に。

西浮間小では毎月、月初めの週の目当ては「挨拶」に関する内容になっています。毎朝、南門や昇降口で「おはようございます」と私たち教師は子供たちに挨拶をし続けています。けれど、なかなか完全定着ができないのが西浮っ子の現状です。「挨拶されたら挨拶を返す」から、「進んで自分から気持ちのよい挨拶ができる」西浮っ子を増やしていきたいですね。挨拶は魔法の言葉です。人間関係は挨拶から始まります。ご家庭でも、大人からどんどん挨拶の声をかけて、挨拶いっぱい家庭にしていってください。

二つ目の「返事」も本当に大切です。「は〜い」と気の抜けた返事ではなく、「はいっ！」と短く元気で気持ちの良い返事ができるとよいですね。名前を呼ばれたときだけでなく、話をしているときにも「はい」という声があると、気持ちよく会話を続けることができます。子供に返事をさせるためには、大人も意図的に「はい」という返事を子供に聞かせていくことが必要ではないでしょうか。

三つ目の「椅子をいれ、履物をそろえる」には、（へえ〜）と思われた方もいらっしゃるのかもしれませんがね。「履物を揃える」行為は、一度立ち止まって、振り返り、体がかがめて、両手で揃えます。これは、自分の「我」を捨てることにつながるのだそうです。

（「我」というのは、自分の考えに凝り固まって人の話に耳を貸さないことです。）学校でも、子供たちが明るく落ち着いたクラスの下駄箱は、いつも全員の靴がきちんと揃って入れられているものです。（西浮間小の下駄箱はどのクラスもいつもきちんと靴が入っています。）ご家庭の玄関はいかがですか？

